



年間第 21 主日 (マタイ 16:13-20)

あなたに天の国の鍵を授ける

「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。」(16・19) 宗教画では、鍵を手を持つ聖ペトロ、剣を持つ聖パウロという構図はよく描かれます。あらためて「鍵」について考える機会としましょう。

先日、お告げのマリアのシスター橋口ハセさんが亡くなりました。名前を聞いてピンと来る人はそうとう「お告げのマリア」ならぬ「お告げのマニア」です。出津の救護院という場所で観光のため訪れた方にド・ロ神父様がフランスから持ち込んだオルガンを弾いて、「いつくしみふかき」を一緒に歌いましょうと、オルガンの音色を聞かせ、母親から聞いたド・ロ神父様の思い出を語ってくれたシスターでした。

そのシスターが、8月19日、101歳で天国に旅立っていきました。往年の、オルガンを弾いている姿は、YouTubeで誰でも観ることができます。一目見ただけで、足踏みオルガンの素朴な音色に魅了されると思います。ぜひご覧ください。

私は直接、橋口シスターにお目にかかったことはありませんが、きっと出津教会、外海地区巡りで外すことのできない場所、出会いだっただのだと思います。すると、橋口シスターは外海地区の鍵となる人物だったのではないのでしょうか。

巡礼で訪ねてくる人と出津とをつなぐ鍵となる人、訪問者をド・ロ神父様とその時代につないでくれる鍵となる人。ド・ロ神父様を日本に送ってくれた神様につないでくれる人。それが橋口シスターだったのだと思います。橋口ハセと言うくらいですから、生きていううちにハセ参じたかったです。

福音朗読に戻りましょう。「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。」物理的な鍵を握っていても構わないのですが、私はペトロ自身が、天の国の鍵なのではないかなと考えました。

ペトロは信仰を表明した後、イエスが死と復活を予告したことに慌てて、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません」(16・22)と遮ります。このようにペトロはまだ不完全ですが、その後もイエスの言葉を生きる土台「岩」にしていったのです。イエスの言葉に信頼を置いて生きる姿が、天の国の鍵ではないのでしょうか。

ペトロは、イエスから天の国の鍵を託されました。私たちがペトロに倣って、不完全な者ではあるけれどもイエスの言葉に土台を置いて生きようとするなら、私たちも天の国の鍵を授けられた者と言えるのではないのでしょうか。私たちの生き方が、生き方を探している人をつなぎます。

あなたが地上でつないだ人は、本当の生き方を見つけ出し、天上でもつながれます。101歳で亡くなったシスターが、見ず知らずの人々を

地上でつなぎ、その人たちの何人かは、イエスの言葉に土台を置いて生きるシスターを見て、天でもつながれていきます。私たちもペトロに倣い、身近な先輩に倣うことで、イエスから天の国の鍵を授けてもらえるのです。

私たちは、地上で何人の人をつなぐことができるでしょうか。イエスの言葉に土台を置いて生きる姿を通して、何人の人を地上でつなぐのでしょうか。それは召された生き方によって違うでしょう。ある人は、何の妨げもなく、地上の人々をつなぎ、天の国にもつなぐ生き方に召されます。

もしその招きを受けたなら、大切にしてください。101歳まで、命尽きるまで地上の人々をつなぐ生き方は、誰にでもできるものではないからです。大きな志を立てて、数多くの人をつなぐ鍵になりましょう。鍵は小さな存在ですが、とても大切な存在なのです。

年間第 22 主日(マタイ 16:21-27)